２０２３年１２月

MITOMI FUKUSIKAI

三富福祉会通信

Vol.19

（社福）三富福祉会
広報部　発行

山梨市三富川浦 2203
☎0553-39-2714
https://www.mitomi-fukushikai.com

特集：入所施設からの地域移行について

■各事業所の近況

■プロペラの製品紹介

■ハロハロキッズのグループトーク

■地域活動支援センター「オアシスやまなし結」の活動

etc・・・

１２
２０２３

ハナミズキホーム開設から 4 年が経過、入所施設白樺園から次の地域移行の場として新しいグループホームを設立する運びとなりました。2024 年 4 月の開始に向けて、現状と課題を理事長よりお伝えします。

特集 入所施設からの地域移行

～新グループホームの設立～

入所施設からグループホームへの課題

理事長　山西　孝

新グループホーム（第 1 ハナモモホーム）は 10 月中旬に着工しました。11 月下旬には屋根も葺きあがり外観は整いました。年明け 2 月末には完成の運びとなります。
白樺園入所者の地域移行の受け皿として計画されました。今回は 10 名の男性利用者がハナモモホームに移行します。来年の花モモが咲くころには 10 名が新しい生活を送っていることでしょう。

さて、グループホーム建設は順調に進んでいますが課題は山積です。

〇職員確保について

職員確保が困難を極めています。障害者施設へ就職希望する学生が激減しています。当法人への応募もないに等しい状態です。このままでは来年度は各事業所の職員配置数が現状より大幅に減る見込みです。ハナモモホームに必要な人員は各事業所から集める予定ですが厳しい状況です。人員配置体制加算が取れない場合も想定しています。例えば世話人配置を 4 人に 1 人を 6 人に一人にする。生活介護では支援員を 2 人に一人を 3 人に一人に職員配置を減らさざるを得なくなりそうです。

〇外部サービス利用について

制度上ではグループホームでは外部サービスが利用できます。グループホーム内でも外部のサービス（重度訪問介護・居宅介護）が要件を満たせば使うことができます。また外出時には行動援護や移動支援が原則使えます。これらは利用者にとって大きなメリットです。入所施設では難しかった個別支援が受けられます。例えば入浴や食事の時に必要があれば外部の事業者のヘルパーから個別の介助を受けられます。また、休日などに個別の支援者と外出することも可能になります。しかし、残念ながら圏域内には外部サービスを提供する事業者は法人内のハロハロ 2 番館しかないのが現状です。したがって職員不足は同じ状況となります。当面の間、ハロハロ 2 番館のヘルパー派遣は難しい状況です。

○グループホームの家賃について

グループホームの家賃は利用者負担となります。第１ハナモモホームホームの建設費用は約１億円です。補助金を頂いた残りの約 7,000 万円は金融機関からの借り入れとなります。20 年ローンで毎月の返済額は 40 万円を超えます。つまり一人当たりの家賃は 4 万円頂かないと法人は赤字になってしまいます。家賃補助が 1 万円ありますので実際の利用者負担は 3 万円です。しかし障害基礎年金だけの収入ではかなりの負担増になります。特別障害者手当 27,980 円の受給が必須になります。しかし支給を決定するのは市町村です。柔軟な判断を期待します。

職員確保については、まだ時間がありますので募集の追い込みをかけていきます。パートの人を中心に媒体を使って大規模な応募を募ります。各事業所においては効率よく職員が働くことで利用者にご迷惑のかからない支援方法の検討を行います。

外部サービスの利用については 2 番館の職員配置は減らさずグループホーム対応の職員を配置することを検討します。またグループホームの職員が個別支援を行えるように配慮します。

ハナモモホームの家賃が 4 万円以上の設定については、法人が負担できる額を検討します。また利用者個人の特別障害者手当を申請し収入増をはかります。

新グループホームは来春スタートいたします。大きな 3 点の課題をあげてみましたが三富福祉会の総力を挙げて課題に取り組みます。

９月に地鎮祭を行いました

ハナモモから見た工事の様子です

グループホームはハナモモの道向かいになります

三富福祉会理事長

山西　孝

理事長より

全国大会を終えて

理事長　山西　孝

山梨県知的障害者支援協会では、去る 11 月 16 日、17 日の二日間にわたり全国知的障害福祉関係職員研究大会（全国大会）を富士吉田市富士急ハイランドリゾートホテルにおいて開催しました。

全国大会を引き受けたのは 5 年前の関東地区会長会議の後だったと記憶しています。関東地区で群馬県が候補に挙がっていたのですが事情により中島会長が辞退されました。関東地区会長の菊地さんがお困りになっていたので、栗原副会長とご相談の上、山梨県として開催を引き受けしました。支援協会の理事会の了承も取らずに乱暴な決定ではありました。

手始めに令和元年の鹿児島大会から視察団を派遣しました。正式に山梨大会実行委員会のメンバーが決まっていたわけでも無かったように思います。その後新型コロナにより京都大会が一年延期、山梨大会も令和 4 年から 5 年に延期しました。

山梨大会を決定した平成 30 年当時は新型コロナの影も形もない時代でした。当時の全国大会はほとんどが県庁所在地の大都市で開催されていました。参加人数も 2 千人から 3 千規模が当たり前でした。山梨で 2 千人規模の大会が開催できるのか検討しました。山梨県民ホールが収容人員 1989 席でしたので、甲府で開催すれば 1,800 名規模の大会は開催できる見通しはつきました。

結果的には 800 名規模の大会として富士山麓の富士急ハイランドホテル一会場で開催することになりました。期間も慣例の 2 泊 3 日から 1 泊 2 日に短縮して、山梨県の身の丈に合った開催規模としました。この事は成功の第一歩であったと思います。

大会スタッフの確保は大きな問題でした。私が経験している過去の関東地区知的障害福祉関係職員研究大会（関東ブロック大会）では協会加盟施設の施設長クラスが実行委員を務めて入所施設を中心にスタッフを派遣する形でした。規模の大きな入所施設の協力が無ければ開催不可能と思われました。今回の全国大会では相談支援系の職員のネットワークにより比較的に若いスタッフが集まってくれました。もちろんスタッフ部会の皆さんが縁の下の力となってくれたのは心強かったです。今までにない実行委員の構成は実行力に富み機動力を発揮しました。しかし大きな研修会を運営するノウハウを持つ司令塔の存在が有りませんでした。そこで聖ヨハネ学園東京事業所の田中さんにご協力を頂きました。田中さんは前回の関ブロ大会で見事な司令塔の役を務めてくれていました。山梨県はいつも大きな大会になると聖ヨハネ会のお世話になっています。前々回は葉山さんでした。

当日は全国から約 720 名の参加がありました。大会実行委員長の想いとして、雄大な富士山を身近にご覧になっていただき感動していただくことでした。研修の内容はもちろん充実したものとなりました。何より富士山が初日には青空をバックに薄化粧で出迎えてくれ、二日目の午前中はあいにくの雨でしたが、午後には天気は回復し

雪積によりお色直しして厚化粧となった姿で現れてくれました。富士山を初めてみる参加者も多く歓声を上げていました。

今大会の総括はこれからですが、大会が無事終了したことに安堵しています。毎晩よく眠れるようになりました。皆さんのご協力に感謝いたします。

5類になってからの

各事業所の活動報告

外出中

5月よりコロナが5類となったことで、万全な感染予防をしながら外出活動も再開してきています。各事業所に活気が戻ってきています！！

白樺園では河口湖、ホテルマウント富士、清流公園への外出活動が行われました。これまで甲州市や山梨市などへの外出は出来ていましたが、5類相当になったことで遠方への外出が叶い、利用者の皆さんもいつもより笑顔が多く見られていました。普段とは違う環境での散歩や食事は、多くの刺激にあふれており、利用者さんも職員も楽しい外出となりました。（寺田）

ハロハロ二番館は、コロナ５類移行に伴い、少しずつですが活動に幅がもてるようになっています。春はお花見を兼ねたお散歩、夏はソーシャルディスタンスを意識しながら小さいプールを２～３個利用した水遊び、今まで出来なかった活動も少しずつ出来る様になってきました。
これから冬休みに向けて色々なイベントや企画を準備していきたいと考えています。まだまだ制限があり油断が出来ませんが、少しでも楽しんでいただける企画を考えていこうと思っています。（青山）

4年ぶりに山梨県知的障害者支援協会主催とする「スポーツ大会＆交流文化祭」が開催され、小瀬スポーツ公園へ出掛けてきました。舞台発表、サッカー教室、フライングディスク、玉入れなど、ゆとりのあるタイムスケジュールで、他事業所の方とも交流しながら、楽しく参加することができました。久しぶりの大きな行事とあって、会場での利用様の笑顔が忘れられません。「今まではこれが普通だったな。」と思いながら、良い刺激を受けました。これからも、日々の活動や作業の他、このようなイベントにも積極的に参加していきたいと思います。（中山）

プロペラの製品紹介

今日も元気に
営業中！！

ワーキングベースプロペラでは、日々利用者様が製品づくりに勤しんでおります。メインとなるのは和紙を使用した製品です。まずは和紙の原料となるこうぞを叩いて柔らかくし、それをミキサーしていきます。それを漉くことで和紙として完成します。和紙は名刺やカレンダーなど様々な製品へと変身します。その製品を作る為の針仕事なども利用者様の仕事の一つとなります。一つ一つが手作業で、丹精込めて作られた製品たちを是非お手に取ってもらえると嬉しいです。また新作として手ぬぐいも作っております。利用者様の作品をあしらった可愛らしいデザインです。こちらも是非、お手に取っていただけたらと思います。

ハロハロキッズの大学生バイトスタッフにお話を聞きました

●ハロハロキッズを知ったきっかけを教えてください

（真島）高校生の時に知り合いのスタッフさんから教えてもらいました。見学時に子ども達がのびのびと楽しく活動する姿や、子どもたちに向けるスタッフの温かい眼差しや支援が非常に印象的で、私もここで多くのことを学びたいと思いました。

（渡邊）大学の長期インターンシップ説明会で三富福祉会を知って、見学したのがきっかけです。温かな雰囲気、子どもだけではなくて大人を含めたみんなの明るい笑顔が溢れていて、その光景に一瞬で心惹かれました。子供たちはスタッフと楽しく関わりつつも、真剣に課題や活動に取り組んでいて、私もここで一緒に成長したいと強く感じました。

●仕事をしていて楽しいこと、嬉しかったことを教えてください

（真島）活動を通して一緒に楽しい時間を過ごせることです。子ども達が自分の力でできることが増え、成長していく姿を近くで見られるのも嬉しい瞬間です。何気ない会話も楽しいですし、子どもたちから色々な事をたくさん学ばせてもらっているのでこれからも一緒に成長していけたらと思います！

（渡邊）嬉しいことは子どもたちが学校での出来事等をこっそり教えてくれ、最近少しずつ信頼関係を築けているのかなと感じています。分からないことはすぐに他のスタッフに聞けるので、不安や迷いを一人で抱え込まず、純粋に子どもたちとの活動を一緒に楽しんでいます！

（真島）活動で私自身が苦手な工作をした時は、大人にも苦手や失敗もある姿をありのまま見せることで、子どもたちに「失敗は悪いことでも恥ずかしいことでもないんだ」という、チャレンジしてみる気持ちを持ってもらうことに繋がったら良いなと思います。

（渡邊）子供とのかかわりの中で「どうしたらよかったのかなぁ。」ってすごく悩むこともありましたが、もし、似たような状況になってしまった時はこうしてみようと自分なりに考えています。それも含めて自分の勉強にもなっていると思います。

渡邊紗優さん

真島妃茉李さん

真島さんは山梨大学教育学部三年生　渡邊さんは山梨県立大学福祉コミュニティ学科一年生です

２０２３年１２月

地域包括支援センター

オアシスやまなし結の活動について

今回はオアシスやまなし結の活動を紹介します。基本的には個人でやりたい事に取り組むことが多く、皆さん別々の活動をしています。個人的に材料を持ち込んで取り組んでいる方も少なくありません。アート活動、習字、プラモデル、塗り絵、編み物など様々です。また事業所で用意した材料を使って毎日作成する方もいます。アイロンビーズ、折り紙、裁縫（刺し子、雑巾、エコバックなど）また月に数回、参加者を募って、お菓子作りや季節に合わせた工作も行います。時には地元のボランティア団体の方と一緒に扇子や粘土でお雛様を作ったりもしました。外部の講師による活動もあり毎週金曜の午後にヨガ教室、不定期でリトミックや陶芸、絵画教室も行っています。最近は将棋の出来るボランティアさんをお願いして、月に数回将棋教室も行っています。その他、山梨市社会協議会主催の、スポーツ大会・ボッチャ体験、芋ほり会、料理教室、釣り大会などにも積極的に参加をしています。まだまだ利用者さんを募集していますので、興味のある方がいらっしゃったら見学お待ちしています(*^_^

ヨガ教室

ちぎり絵

生け花

芋ほり会

工　作

めだかの飼育も
しています

人材開拓 project

管理部長（採用担当）
佐野　毅

インターンシップのすすめ

厚生労働省は、若者の就労定着促進および就労後のミズマッチ（早期離職）防止の観点から、学生が在学中に参加する「インターンンシップ」のあり方を、このほど大幅に改正しました。改正の主なポイントは、「1 日（もしくは半日）単位の職場説明会（職場見学会）」偏重から脱却し、「1 ケ月～半年以上の長期に渉る職場体験実習」重視へと改正されました。これにより、学生にとっては、自分が将来勤めることになるかも知れない企業の職場風土、雰囲気をよく理解でき納得したうえで就職に結びつけることができること。企業側にとっては、その学生が将来職場の同僚として一緒に働くことになるかもしれない、という視点で学生（インターンシップ生）と関わることができるので、学生にとっても企業にとってもお互いにメリットが大きいこと。が主なポイントです。

三富福祉会では、この流れを受けて、今年度から法人内の一部の事業所で県立大学１年生の学生さんを「長期インターンシップ生」として受け入れています。受け入れていくうえで気をつけなければいけないことは、インターンシップ生にとって「学業の妨げ」になることがないように最大限の配慮をすること。その点を充分に考慮したうえでインターンシップ生の受け入れを今後も積極的に推進していく予定です。

【採用に関するお問い合わせ】
☎ 0553-34-9200　三富福祉会・採用担当まで

✎法人研修を開催しました✐

対面での法人研修を開催、50 名が集まりました。今回は職員の心理的負担を軽減、職場定着や多様な人材が適材適所で活躍できる環境の構築を目標として、メンタルヘルスについて学びました。人員の確保と人材育成を通し、「チーム三富福祉会」を創り上げていきたいと思います。

＜職員募集中！！＞

生活支援スタッフ（資格不問）
（社会福祉士、精神保健福祉士あれば尚可）
看護師、栄養士、事務員、ヘルパー
（詳細は、採用担当までお問合せください。）

☆表紙作品紹介☆

ハロハロー番館　アート活動

今年は秋というものを殆ど感じることなく、冬へと移り変わっていくような気がします。この作品は、秋の味覚であるサンマを描いております。少し早い季節の移り変わりに体や気持ちはなかなか追いつかない事も多いですが、こうした「秋」を感じるものに触れると、どこか心穏やかになるように感じます。そして厳しい「冬」を超え、暖かな「春」へと歩んでいきたいですね。（丸山）

編集後記

三富福祉会通信　Vol１９！！

今号はコロナウイルスの分類が下がり、さらに活動の幅が広がった皆さんの楽しそうなご様子を掲載いたしました。今後もしっかりと感染予防対策を行いつつ、活動を楽しんでもらえるよう努めてまいります。

第一ハナモモホームの方も、今後情報を掲載していきたいと思っているので、楽しみにしていただけたらと思います。

今後とも、よろしくお願いいたします（朝倉）

広報部委員：吾妻、日原、青山、丸山、朝倉、寺田